

標本から学ぶ生き物の不思議

—Bio Love!—

28

【個人出展】

京都大学総合博物館 研究生 谷戸 崇

●どんな観察なの？

自然の中で出会える動物を標本にし、実際に標本や実物を観察したり、触ったりしながら生き物の不思議について学びましょう。身近で手に入るニワトリの手羽先からも生き物の不思議を学ぶことができます。

●観察のしかたとコツ

【用意するもの】

タヌキ・ネズミなどの頭骨（図1、2）、スッポンの腕（図3）、ニワトリの手羽先、なべ

【観察のしかた】

I. 標本の見所（標本は消毒してあります）

- (1)骨を見てどんな動物かまずは想像してみましょう。
- (2)歯の形からどのようなものを食べているか考えてみましょう。また、何を食べるのに役立っているかヒトの歯と比べてみましょう。臼状の形の歯は植物などをすりつぶすのに役立ちます。とがった歯は肉をかみ切るのに役立ちます。
- (3)スッポンの腕の骨の役割を考えてみましょう。ヒトの腕と同じようなパーツから出来ています。

II. ニワトリの手羽先から骨格標本の作りかた

- (1)手羽先をゆでる前に中にどんな骨が入っているのか想像してみましょう。とくに、ヒトの身体のどこの部分に対応をしているか考えてみましょう。
- (2)手羽先をゆでます。
鍋に手羽先と水を入れます。手羽先の本数は、水からはみ出ないように調節します。骨のまわりの肉が白くなるまで10分間ゆでます。
- (3)ゆであがったら、骨を壊さないように気をつけて、肉を取り除いていきましょう（図4）。
- (4)骨をきれいに洗って良く乾かします。標本箱や、プラスチックのケースに入れたら完成です。乾燥剤や防虫剤を一緒に入れておくとカビや虫から標本を守ることができます。

●気をつけよう

標本を触った後は手を洗いましょう。

●もっとくわしく知るために

- ・大阪市立自然史博物館編著：「標本の作り方 自然を記録に残そう」東海大学出版部（2007）
- ・盛口満著：「フライドチキンの恐竜学」SBクリエイティブ株式会社（2008）

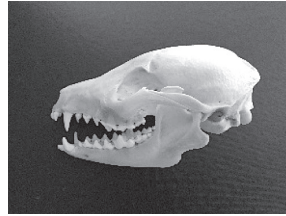


図1 タヌキの頭骨

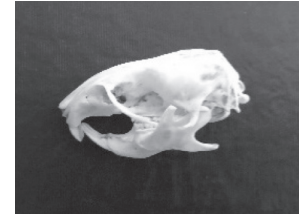


図2 ネズミの頭骨



図3 スッポンの腕の骨



図4 ニワトリの手羽先骨